

地域づくり活動の行動計画

荒尾市立有明医療センター 緩和ケアチーム

2024年度 地域緩和ケア連携調整員研修 ベーシックコース 【チームメンバー】

参加施設・所属	氏名(職種)
荒尾市立有明医療センター 外科	佐藤 伸隆 (医師)
荒尾市立有明医療センター 薬剤部	大久保 達也 (薬剤師)
荒尾市立有明医療センター 看護部 がん相談支援センター	宮野 由美 (看護師)
荒尾市立有明医療センター 看護部	田中 愛海 (看護師)
荒尾市立有明医療センター 患者サポート・医療連携室 がん相談支援センター	大倉 典賢 (社会福祉士)

① 選定した地域の課題

- (1) ACPをより早期の段階で取り入れていくことができないか
- (2) 緩和ケアの担い手が減少していく中で、ケアの質を担保(院内外)していくためにはどうしたらよいか
- (3) 転院や在宅療養へ連携後のフィードバックをより多く得るためにはどうしたらよいか

② どんな地域を目指すのか

『住み慣れた場所で、
自分らしく最期まで過ごせる地域』

①-(1) ACPをより早期の段階で取り入れていくことができないか

③ 目指す地域を実現するために取り組むべきこと

患者をはじめとした一般の方向けの普及・啓発活動。
既存のツールの活用。地域の多職種への研修。

④ 具体的な行動計画

- ・ 院内へのポスター掲示
- ・ “あらお健康手帳”内の『意思表示シート』の積極的な活用
- ・ 高齢がん患者を支える多職種連携協働体制プログラム事業による、多職種からなる地域のオーガナイザー養成を通じて、院外との連携を強化

⑤ 目標達成時期

来年度いっぱいまで評価

①-(2)緩和ケアの担い手が減少していく中で、ケアの質を担保(院内外)していくためにはどうしたらよいか

③目指す地域を実現するために取り組むべきこと
〈院外〉

地域の人口は減少傾向。開業医の世代交代も進んでいるが、24時間体制で訪問対応が可能な在宅医は少なく、将来的には更に減っていく事も懸念される。事前の申合せ(状態変化時)による対応が望ましいが、限界はある。地域の拠点病院による、より積極的なバックアップ体制が必要。

〈院内〉

地域の急性期医療を担う医療機関であるため、がん以外の患者受入れも多く、緩和ケアへの関心は低いスタッフもいる。人材育成のために、緩和ケアに関心のある仲間づくりと、仲間から所属部署へ啓発していくための取組みを行っていく。

①-(2)緩和ケアの担い手が減少していく中で、ケアの質を担保(院内外)していくためにはどうしたらよいか

④具体的な行動計画

- ・院内スタッフの、緩和ケアに熱心な仲間を増やしていく(緩和医療委員会の活動を通して等)。委員会での事例検討だけでなく、部署内でのカンファレンス等でもACP(倫理決定)について等の緩和ケアに関する話題を盛り込んでもらえるよう努めていく。
- ・取組みにより緩和ケアに関する院内スタッフの意識向上を図っていき、今後の人口や院外の緩和ケア提供体制等の動静次第ではあるが地域の拠点病院として必要な対策を適宜検討し行っていく。

⑤目標達成時期

来年度いっぱいまで評価

①-(3)転院や在宅療養へ連携後のフィードバックをより多く得るためにはどうしたらよいか

③目指す地域を実現するために取り組むべきこと

転院や在宅療養への連携調整に際して関わる、各専門職との顔の見える関係づくりの強化。

連携調整に際して用意する情報提供書類へ、ACPでかかわってきた情報等を記載していく。

④具体的な行動計画

- ・地域に向けた研修会・事例検討会等の開催継続。
- ・患者や家族等との関わりで得た情報を、所属部署でのカンファレンスや緩和ケアチーム回診時に共有する。意向や思いを院外との連携に際しての情報提供(看護サマリー等)に反映する。

⑤ 目標達成時期

来年度いっぱいまで評価